

「不登校やひきこもり者の相談支援事業」

特定非営利活動法人 朝来どんぐりの会

1. 事業が目指すところ

全国ではひきこもり者の数が100万人以上と推定されるほど大きな社会問題となっている。朝来市においては令和2年度の調査で約93人と報告があり、ひきこもり者への支援が求められている。

ひきこもりの当事者や家族は大変な苦悩を抱えながら生活されている。安心して気軽に相談できる場所、交流や研修の場所として「朝来どんぐりの会」は、当事者や家族と一緒に課題に取り組み、当事者が自分らしく生き生きとした生活を過ごされることを目指している。当事者や家族が問題を抱え込み孤立することがないように寄り添いながら支援を行っていききたい。

2. 活動内容

(1)相談事業

電話相談・来所相談・家庭訪問等で相談を受け付けている。居場所開所時間以外でも希望に合わせ日程調整をし対応している。

(2)当事者の交流・体験事業

自立を目指した「お料理会」「交流サロン」「お出かけ体験」を実施している。

(3)ひきこもり者の家族の交流と研修会

① 年2回の「どんぐり親の会」を実施

・令和3年7月25日（日）第3回朝来どんぐり親の会
講師：NPO法人コナトリ豊岡ドーナツの会 山本進先生
「家族へのかかわり方」 参加者：スタッフ含め27名

・令和3年11月28日（日）第4回朝来どんぐり親の会
講師：NPO法人ピアサポートひまわりの家

ピアサポーター前野伸輔氏・井上綾香氏・松本理事長
「ひきこもり体験からの出発」参加者：スタッフ含め33名

② 令和3年12月より、毎月第3土曜日午後「どんぐり親のサロン」を開催している。



10月1日念願の居場所開設！



11月28日第4回朝来どんぐり親の会

3. 成果と課題点

(1)成果…令和3年3月にNPO法人を設立し、10月には念願の居場所「どんぐりの家」を開設することができた。これは、多くの方のご協力をいただいたお陰であり、またスタッフが一丸となって努力した賜物でもある。

8月には、朝来市藤岡市長に活動報告を行い、会への理解を得ることができた。居場所の開設日には、市長や市の関係者・市議員・地域の方など大勢の来所があった。しだいに多くの方々にご支援をいただいたことは活動の励みとなっている。また度々新聞に会の活動を掲載していただいたことは確実に活動の広がりへと繋がり、居場所への来所者が少しずつ増加している。

コロナ禍でもできるだけの活動を行いたいとの思いから、電話や手紙等の連絡により対応し、居場所の開所も継続した。また「どんぐり親の会」を2回開催し多くの参加者があった。その時の講演内容が大変すばらしく、参加者に深い感動を与えたことは、ひきこもり支援の必要性と親の学びたいという強い思いがあることがわかった。

(2)課題…居場所を開設したことにより、ひきこもりの家族との相談や関わりも増えてきているが私たちがどのように支援をしていけばよいかまだまだ模索をしている。今後さらに研修を積み、他の関係機関と連携しながら、より良い支援を目指す必要がある。

4. 今後の展望

(1)居場所の活動を充実させる

当事者や家族が気軽に立ち寄り、日常の相談や心を癒す場所として利用していただくことや自立に向けた交流、お料理会、お出かけ体験等を充実させていく。

(2)親の交流会と研修を充実

年2回の「朝来どんぐり親の会」を開催し交流と研修を深める
毎月第3土曜日の「どんぐり親のサロン」で親どうしの繋がりを深めていく。

